

おもしろ工作教室

7月29日、吉田文化会館でおもしろ工作教室が開催されました。およそ130人の子どもたちが参加し、カプセルが起き上がりながら坂を下るピピコカプセル、キーホルダー、割れないシャボン玉づくりなどに挑戦しました。

この行事は、多くの友だちとのふれあいを通して人権意識を高めることを目的に、山鳩子ども会育成会、吉田小学校、吉田文化会館が合同で開催しているものです。

参加した子どもたちは楽しみながら工作に取り組み、交流を深めていました。



▲工作に夢中で取り組む子どもたち。人気のコーナーには順番待ちの行列ができるほどの大盛況。

ふれあい巡回講演会

教育委員会では、公民館などを会場にふれあい巡回講演会を開催しており、その参加者を募集しています。

今までに、今井公民館でハンセン病の問題をテーマに開催したのを皮切りに、子どもの人権について、同和問題についての講演会を行っており、参加者からは大きな反響が寄せられています。

ともに幸せに生きるために、人権について考えてみませんか。

○第5回「今施設で何が起きているか」（高齢者の人権について）

とき：11月20日(日)13時30分～15時

ところ：神島公民館

講師：藤澤千恵子さん（社会福祉法人新寿会きこの老人保健施設看護師長）

○第6回「すでにパートナーシップ

プ男女共同参画と人権」

とき：12月10日(土)13時30分～15時

ところ：大島公民館

講師：市場尚文さん（小児科医、メンズリブ・フォーラム岡山世話人）

問合せ：学校教育課 ☎02154

人権教育講演会

福永宅司さんが一人芝居を熱演

自尊感情を育む環境づくりを訴える

8月1日、笠岡市民会館で人権教育講演会が開催され、元小学校教諭で「子どもの学び館」主宰の福永宅司さんを講師に迎え、一人芝居「15才 学校Ⅳ」を演じていただきました。

原作は、学校に行かなくなって半年になる中学生の大介が九州・屋久島の縄文杉を目指して旅に出かけ、そこで出会った大人たちから勇気をもらい、自尊心に目覚め自分を見つけていく姿を描いた山田洋次監督の同名の映画です。

福永さんは、「差別を一秒でも早くたたき壊して、平等な社会を実現させよう」と呼びかけました。



▶一人芝居を熱演する福永宅司さん。会場は笑いと涙に包まれた。

福永さんの一人芝居に対して、参加者からたくさん感想が寄せられました。その一部を紹介します。

○一人芝居という新しい講演会。福永さんの熱い思いが伝わってきました。「人を変えるのは難しい、変えられるのは自分」その通りですね。

○子どもとの関わり方を考え、一人ひとり子どもと正面から向き合うよう努力していきたいと思いました。

○映画をみたことはいけれど、お芝居に引き込まれてしまい、涙が出ました。今までの自分がどうだったか、あらためて変えていかなければ、子どもたちを大切にしなければと強く思いました。

○「人のことを思いやれる」ということは、まず、自分が認められ大切にされるといふ自尊心がないといけないんだということがよくわかりました。一人ひとりの子に「自分も人も大切」と思える場をつくってあげたいと思いました。

よしだ文化会館だより②